

昔話の読み聞かせ

Q & A

岡山ストーリーテリング研究会代表
筒井悦子

「まの いい りょうし」(一年下)の作者の一人であり、長年、昔話の語りの活動をされている筒井悦子さんに、指導のポイントをお聞きしました。

Q 昔話の読み方に自信がありません。朗読CDなどを使ってよいのでしょうか。

A 少々間違ってもかまいません。先生自身が楽しむ気持ちを持ち、心を込めて読みましょう。

昔話は、語ることで残ってきたものですから、特定の作者はいません。同じ話でも、語る人や地域によって、言葉や言い回し、エピソードの違いがあるものです。読み方が少々違ったり、アクセントが自分流だったりしてもかまいません。ただ、創作ものと違って、昔話には、昔話としての様式がありますから、それを勝手に壊さないということは心がけましょう。

CDは、何度聞いても毎回同じことの繰り返しで、これは昔話を楽しむことにはつながりにくいと思います。何度も聞けば覚

えるかもしれませんが、心の籠もらない暗記になってしまいます。先生は、児童にとって何よりも身近な存在です。その先生の声と気持ちで読んでいただくのが一番です。読み手と聞き手の心が通じ合えるのも、昔話の読み聞かせのよさなのです。

そして、大切なのは、先生が、児童と一緒に楽しもうという気持ちをもつことです。そのためには、あらかじめ、自分で繰り返し素直に声に出して読み、人物像や情景を思い浮かべるようにし、そのイメージをもって、児童に読んであげることです。うすれば、少々分りにくい言葉があっても、児童は、情景や人物像を思い浮かべることができるでしょう。

学年に応じて読み方を変える必要は、特にありません。ただ、昔話には、方言の多いもの、共通語のものなどがあります。方言に慣れない地域の児童に、方言の多い

Q 教師が読んで聞かせた後に、どんな学習が考えられるのでしょうか。

A 同じ昔話を今度は自分で読む、読書と関連つけて別の昔話を読むなど、学習を広げることができます。

先生に読んでもらって楽しんだ後、児童は、自分でも読んでみたいくなるものです。声に出すと、日常とは違う言葉のおもしろさや響き、繰り返しなどが、いつそうよく分かります。目で読むのとは全く違う楽しさや味わえます。また、創作や説明文を読んだときよりも、読み手による違いが出るので、一人一部分ずつでも読み、互いに聞き合うことも楽しいでしょう。

教科書にある昔話と題名は同じでも、話の展開や出来事などが少し違う昔話もある



Q 教科書は、どのように活用したらよいのでしょうか。

A まずは付録にある本文を聞いて楽しみ、それから挿絵を使って感想を交流するという活用が考えられます。

伝統的な言語文化に触れるという点から、まずは、「聞いて楽しむ」ことを大切にしたいです。日本のお話には、最後には必ず「めでたしめでたし」という結末があります。これは、昔話の文化として、昔話にはもともと身近なものといえます。現代社会では、人間の生の声、話す人の思いや心の籠もった言葉・物語など、音としての「言葉の力」に触れる機会は、少なくなっています。幼児期から、テレビはもちろん、携帯電話、スマートフォンなどが当たり前にある時代です。想像力を育てるという意味でも、その機会はどうも失われてしまっています。いろいろな昔話を耳で聞いて、想像して楽しむことをぜひ大切にしてください。

今、失われつつある声の文化として、昔話はもともと身近なものといえます。現代社会では、人間の生の声、話す人の思いや心の籠もった言葉・物語など、音としての「言葉の力」に触れる機会は、少なくなっています。幼児期から、テレビはもちろん、携帯電話、スマートフォンなどが当たり前にある時代です。想像力を育てるという意味でも、その機会はどうも失われてしまっています。いろいろな昔話を耳で聞いて、想像して楽しむことをぜひ大切にしてください。

昔話は、もともと絵が付いていないものですが、教科書には挿絵が掲載されています。それが物語のどの場面なのか、自分が印象に残った場面はどこなのかなど、聞いて楽しんだ後に、みんなで話し合ってもよいでしょう。

教科書一年下巻「まの いい りょうし」の後には、「むかしばなしが、いっぱい」という教材が続きます。これを使って、教科書にある、日本や外国の昔話の登場人物が描かれた絵の中から、好きなものを選んで読むというのもよいかもしれません。

ついでに

山形県生まれ。岡山大学卒業。1974年より岡山で家庭文庫「草の美文庫」をひらき、子どもに昔話などを語り始める。そのかたわら、地域の数々の教育活動・図書館活動に携わる。著書に「子どもに語る 日本の昔話1~3」(こぐま社)、「昔話」とその周辺(一)~(五)(私家版)などがある。

